

# 2-3

演題	マクドナルドをもう一度食べたい！
副題	～食支援がもたらした変化～

食支援
-----

法人名	社会福祉法人 神奈川やすらぎ会
施設名	第二森の里

発表者名 (職種)	塩川 匠 介護職員
共同発表者	増井 ももこ
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	厚木市飯山 3425
TEL	046-248-3888
FAX	046-290-3401
メールアドレス	info@morinosato.jp
URL	https://www.morinosato.jp/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	神奈川県厚木市に、2006年4月に開設された特別養護老人ホームです。 「その人らしく生きることを、最期の瞬間まで」を理念に、“自分らしさ”を支える環境づくりを目指し、自由と尊厳を大切にした暮らしを実践しています。
---------------------------	---

## 研究の目的、PR ポイント

入院を契機にADLが低下し、退院時に食形態が変更となる方は少なくありません。本発表では、人と関わりが苦手で、職員との関係性も希薄だったAさんに対する「食支援」について紹介します。ご本人、ご家族、各専門職の思いと葛藤が交錯する中で、最後はひとつとなって「本人の意思を尊重する」支援を実現できた私たちの実践から得た学びをお伝えします。

## 取り組んだ課題

新型コロナウイルス感染をきっかけに入院されたAさんは、嚥下機能の低下により、医師の指示で常食からお粥・刻み食へと食形態を変更された状態で退院されました。ご本人はこの食形態に納得されず、徐々に不満が募っていきました。そしてある日、ついに不満が爆発し、食事そのものを拒否するようになってしまいました。カンファレンスでは、「好きなものを好きなように食べたい」というAさんの強い意志と、「安全にまだまだ長生きしてほしい」と願う家族、窒息・誤嚥のリスクを重視する看護スタッフ・管理栄養士の視点、そして本人の意向を尊重したいと考える介護スタッフとの間で、それぞれの立場と思いが交差しました。何度も話し合いを重ねた結果、「自分の生活を自分の意志で決めたい」というAさんの気持ちを最優先とし、「好きなものを安全に食べられるようにする」ことを共通の目標として、チームでの取り組みが始まりました。

## 具体的な取り組み

1. 多職種によるアセスメントと目標設定
2. 常食に近づけるための食事試作
3. 口腔機能訓練とリハビリ
4. ご家族の積極的な協力
5. ドキドキの月見バーガー実食

## 活動の成果と評価

- ・嚥下機能が改善し、常食での提供が可能となった。
- ・食支援を通じてAさんとの信頼関係が構築され、現在はスタッフと外食にも出かけるほど良好な関係性が形成された。
- ・「誰のための支援か？」という問いを軸に取り組んだことが、チームの連携力を高め、今後の実践にも活かされる貴重な経験となった。
- ・支援の在り方を改めて見つめ直す契機となった。

## 今後の課題

- ・病院との情報共有の強化
- ・チームの連携力の向上
- ・リハビリに適した環境づくり
- ・同様の支援が必要な対象者への展開